

栗国診療所

医師 新村真人



2年間、ありがとうございました。

栗国島の皆さま、こんにちは。診療所の新村です。

この度、2年間の診療所勤務を終えて沖縄本島への転勤が決まりました。前任の三宅先生から業務を引き継いだことが昨日のこのように感じられます。歴代のやさしく優秀な先生方からのバトンを受け取るという責任の重さに、不安や心配もありました。しかし、どんな時も地域の皆さまに支えてもらい、栗国での2年間はとても素敵な時間でした。

普段の診療では、病気のことだけでなく時には世間話をするなど、皆さまの調子の良い時も悪い時も多くの時間を過ごしました。「ユンタクしすぎちゃったね～」と笑顔で診察室を出て行く患者さんの背中をお見送りするときは私自身も楽しい気持ちでした。

救急外来では、私の余裕がなく、つらい気持ちで受診した皆さまのご期待にお応えできなかったこともあったと思います。それでも診療所を頼って相談してくださり、ありがとうございました。栗国島では年間20件ほどのヘリ搬送がありますが、消防団のみなさまがいつも迅速に対応してくださいました。おかげさまで多くの方の命を助けることができました。

また、赴任直後には初めてのコロナウイルスの大きな流行がありました。感染拡大予防のために日常生活の制限をお願いすることもあり、不便な思いをさせていただきました。現在は重症化率が下がり5類感染症となり日常が戻り、大変喜ばしいことです。しかし、今後も定期的に流行は起こり、高齢者の多い栗国島では脅威になり得ます。ぜひ、この経験で身につけた予防法を、臨機応変に活用しながら日常を過ごして欲しいです。

診療所の外では、老人ホームの皆さまとたくさん交流させて頂きました。デイサービスでも、入所スペースでも、職員の皆さまが介護の方法やレクレーションに工夫をこらしており、元気に楽しそうにしている利用者さんを見て「介護のパワー」を感じました。また、ホームに行くと利用者の皆さまが温かく迎えてくださり、行くたびに元気をもらっていましたので、火曜日の回診日以外もつつい足を運ぶこともありました。

また「みまわり事業」の一員として、おひとりぐらしの高齢者の自宅訪問をさせて頂きました。「転んでいないか？熱中症になっていないか？」と心配しながら訪問して、元気そうなお様子を確認できたときは、事業のメンバー（民生課 / 社会福祉協議会）とともに嬉しい気持ちになりました。生活の状況がひとりひとり異なり、必要な介入方法が異なることを知ることが出来ました。

終末期の方の島内での緩和治療やお看取りを担当させて頂くこともありました。人生の大先輩の皆さまの大切な最後の時間を、主治医としてみさせて頂くことに大きな責任を感じました。おひとりおひとりのこれまでの人生を聞かせて頂き、辛い中でも最後まで頑張られているお姿にとっても勇気をもらいました。未熟な私ではありましたが、最後まで主治医として任せてもらい本当にありがとうございました。